

感染状況に応じた早期対応（令和3年7月21日）

○ 本日は、7月15日の会見で概略をご説明した、感染状況に応じた早期対応についてご説明します。

スライド 2

- 前回ご説明したとおり、段階1の早期警戒段階では、注意喚起等を徹底していきます。
- また、段階2の警戒段階では、早期に県内の感染拡大の立ち上がりを把握し、PCR検査体制等の強化や、さらなる注意喚起を行います。
- さらに段階3の行動制限実施では、速やかな行動制限により早期に収束を図る、といった流れを考えています。

スライド 3

- 段階1の早期警戒段階の目安について、説明します。
- 過去の感染拡大においては、感染拡大地域との往来の活発化により、県内でも感染が拡大するという現象が見られています。
- 先週の広島大学田中先生の発表にもありましたが、このことは、ウイルスゲノム解析の結果からも強く支持されていると考えます。
- とりわけ、東京都と大阪府の感染拡大から、数週間後には本県でも感染拡大が起きている。

スライド 4

- そこで、東京都及び大阪府の感染状況や、広島県への人流を基に、広島県の立ち上がりの予兆を、キャッチする指標を設定します。

スライド 5

- 先ほどの感染状況及び広島県への人流を、考慮した指標において1に達すると、早期警戒段階とします。
- 過去の感染拡大時では、この県外流入指標が1を超えてから、広島県の感染状況が概ね3週間後に、警戒基準値4を超えています。

スライド 6

- こちらは、現在の県外流入指標の推移となっています。
- 繰り返しになりますが、県外流入指標が1を超え、概ね3週間後に感染拡大していく

傾向がありますが、7月14日に1を超え、7月17日時点では、1.6に達していません。

スライド 7

- こちらは、感染拡大地域から広島県への流入人口です。
- 紫は過去7日間10万人あたりの新規感染者数が、25人以上の地域、赤は15人以上25人未満の地域、黄色は、10人以上15人未満の地域です。
- 緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が実施されている地域を含め、感染拡大地域から広島県への人流は増加しています。

スライド 8

- 現在、すでに県外流入指標1を超えており、この段階で重要なのは、感染拡大地域からの人流を抑えることですが、実際には増えている状況です。
- そのため、県として「感染拡大地域へ、行かない、呼ばない」とお願いしているところです。
- 特に人の行き来の多くなるこれからの夏休みシーズンは、原則、感染拡大地域へは行かないでください。家族や友達を呼ばないよう、お願いします。

スライド 9

- こちらは、5月17日から7月18日までの概ね2か月間における昼間の県内の人流です。直近では、高い水準を維持していることがわかります。

スライド 10

- こちらは、5月17日から7月18日までの概ね2か月における夜の県内の人流です。こちらでも、直近では高い水準を維持していることがわかります。

スライド 11

- 段階2の警戒段階の目安について、説明します。
- まず、県内の感染者について、約7割を広島市の感染者が占めているということがわかっており、広島市の感染状況に特に注目する必要があると考えています。

スライド 12

- また広島市の感染状況が、県全体の感染状況に、先立って拡大する傾向がみられることから、広島市の感染状況を県内の感染状況の立ち上がりを把握する指標として、設定します。

スライド 13

○ 広島市の直近1週間の人口10万人あたりの新規報告者数が、4人に達すると、警戒段階とします。過去の感染拡大時では、この指標が4人を超えてから概ね2から4週間後に、県全体の感染状況が10人を超えています。

スライド 14

- 段階3の行動制限実施の目安について、説明します。
- まず、公表日時点の感染状況と実際の感染状況の差について、説明します。現在、直近1週間の人口10万人あたりの新規報告者数は、公表日を基準日として、算出しており、青色のグラフになります。
- 一方で、感染日から公表日まで、概ね9日を要することから、実際の感染状況はオレンジのレベルになります。つまりこのグラフから、感染が拡大しているときは、公表日を基準とした感染状況に比べ、実際の感染状況が悪化しているということがわかります。
- そこで、本県では実際の感染状況を基に、集中対策を始めたいと考えています。

スライド 15

- 過去の感染状況を確認すると、公表日を基準日とした直近1週間の人口10万人あたりの新規報告者数が、行動制限実施の目安としている10人でも、現在進行形の感染状況はステージIV目安値相当となっています。
- そのためこういった、これまでよりも早いタイミングで、集中対策を実施する必要があると考えています。

スライド 16

- 今までの感染拡大では公表日を基準日とした感染状況が20人程度で、集中対策を開始してきましたが、今後、行動制限実施の目安としては、公表日を基準日とした感染状況ではなく、実際の感染状況が20人程度で、集中対策を実施したいと考えています。
- 実際の感染状況が20人程度というと、過去の状況だと、公表日を基準日とした感染状況では10人となるため、公表日ベースの10人を目安として集中対策を開始します。
- 実際には、公表日ベースで県全体の直近1週間の人口10万人あたりの新規報告者数が10人を超え、さらに継続して拡大すると判断できるときに、ただちに、本部員会議を開催し、集中対策を実施します。
- さらに、県全体の直近1週間の人口10万人あたりの新規報告者数が15人程度になる日から、感染状況を考慮した上で、営業時間短縮要請等の強い措置を実施します。

スライド 17

- これまでの対策タイミングよりも早い段階で行動制限等の対策を行うことで、実際の対策期間を短縮することができ、その波における総感染者数も減少できると、考えています。
- 例えば、この図のオレンジのレベルで対策を開始する場合に比べ、紫のレベルで対策を開始する場合は、早く対策を終了することができます。また、感染者を減少させることができます。
- これまでも感染状況が一定以上悪化した際には、行動制限を含めた対策を実施してきましたが、対策タイミングを早めるとともに、そのタイミングを明確にしておく部分が新たな試みとなります。

スライド 18

- 早期対策で期待する効果として、対策期間の短縮と総感染者数の減少をあげています。1つ目の効果である対策期間を短縮することによって、県民のみなさまに行動制限をお願いする期間をできるだけ短くし、少しでも早く日常を取り戻していきたいと考えています。
- また、経営環境が悪化している中で営業時間短縮要請などに、御協力いただいている事業者のみなさまへの、営業時間短縮要請等の期間も少しでも短くしていきたいと考えています。
さらに、県の新型コロナウイルス感染症対策に要する費用を抑制できると考えています。
- 2つ目の効果であるその波の総感染者数を減少することによって、県民のみなさまが新型コロナウイルス感染症によって、重症化などになることを少しでも減らしたいと考えています。
- また、1年以上、新型コロナウイルス感染症業務に携わっている医療従事者の方々を始めとした、すべての方々のご負担を少しでも軽減していきたいと考えています。さらに、一般医療への負荷を軽減することで、県民のみなさまが適切な医療を受けられる体制を維持したいと考えています。

スライド 19

- こちらは、対策期間の短縮日数を試算したものになります。
- 直近1週間の人口10万人あたりの新規報告者数が10人で対策を開始する場合、20人で対策する場合と比べて14日程度、集中対策期間を短縮できると期待しています。

スライド 20

- こちらは、総感染者数を試算したものになります。
- 直近1週間の人口10万人あたりの新規報告者数が10人で対策を開始する場合、20人で対策する場合と比べて、約3、000人割合にして55%程度減少させることができると考えています。
- 感染者数が減少することで、重症者数や死亡者数を減少できると期待しています。

スライド 21

- こちらは、段階ごとの対応策を示しています。早期警戒段階では県民のみなさまへ、県外往来などに関する強い注意喚起を発信していきます。
- 警戒段階では、PCR検査体制の強化や積極的疫学調査、医療機関でのPCR検査の徹底に向けた関係機関への要請、県民や事業者のみなさまへの感染対策の徹底を要請します。
- 行動制限実施の段階3では、ただちに集中対策を開始し、広島県の直近1週間の人口10万人あたりの新規報告者数が15程度になる日から、感染状況を考慮した上で営業時間短縮要請等の強い措置を実施します。

スライド 22

- こちらは、今までの説明をまとめたものになります。
- 県外流入指標1を超えると、早期警戒段階とし、注意喚起等を徹底していきます。
- 広島市の直近1週間の人口10万人あたりの新規報告者数が4人を超えると、警戒段階とし、PCR検査体制等の強化やさらなる注意喚起を行います。
- さらに、広島県の直近1週間の人口10万人あたりの新規報告者数が10人を超えると行動制限実施の段階として、ただちに集中対策を開始し、広島県の直近1週間の人口10万人あたりの新規報告者数15程度になる日から、感染状況を考慮した上で営業時間短縮要請等の強い措置を実施します。

スライド 23

- 現在は早期警戒段階を経て、警戒段階となっています。
- 「感染地域に行かない、呼ばない」によって、県外からの流入を抑えていくことに加えて、感染の種を徹底的につんでいくことを目的に感染者の早期捕捉と遮断を徹底するため、積極的疫学調査、医療機関でのPCR検査、PCRセンター等での検査の3つが大事になります。これによって、現在の感染状況を抑えることができるかもしれません。
- そのため、県としては積極的疫学調査や医療機関でのPCR検査の徹底に向けて改めて、現状をご説明し、関係機関に要請を行ったところです。

○ また、これまで行っている事業所PCRで積極的疫学調査よりもさらに広い範囲で検査を行います。さらに、県民向け、帰省者向けに臨時スポットやPCRセンターで検査を実施しています。後ほどご説明する、PCR臨時スポットの追加設置も、明日から実施します。

スライド 24

○ 繰り返しになりますが、現在は、県外流入指標が1を超えており、広島市の直近1週間の人口10万人あたりの新規報告者数が4人を超えていることから警戒段階になります。

○ このまま上昇傾向が続くと、8月上旬には行動制限を実施しなければいけない可能性があります。ここで何としても、行動制限実施の段階に達する前に感染拡大を抑える必要があります。

○ そのためには、県民、事業者のみなさま一人一人の行動がより一層、重要になってきます。

スライド 25

○ PCR検査体制の強化について、説明します。

県内の居住者及び就業者、やむを得ない事情により帰省等された県外の方を対象に、明日から、8月31日まで福山駅前ですべて予約なしで、無料で検査を行うこととします。

○ 受検方法は、検査キットを受け取って、自宅で唾液を取っていただいて後日検体を提出していただく方式としています。

○ 感染拡大地域からの往来は、控えるようお願いしているところですが、家庭の事情や仕事などでやむを得ない事情で来られる方は、広島への帰省者向けの事前検査や広島駅、空港、小谷サービスエリア、そして、今回追加する福山駅前での検査を積極的に受けてください。

スライド 26

○ 県民、事業者の皆様へのお願いです。

○ とにかく、これからの夏休みシーズンは感染拡大地域へは行かないでください。家族や友達を呼ばないでください。やむをえない事情があっても、広島に来られる家族や知り合いがいればPCR検査を勧めてください。

そして、基本的な感染対策を徹底してください。特別なことはなく、これまでお願いしていることと同じです。

○ 警戒段階の今は、それを全員で徹底しないと効果はありません。ついこの間、行動制限が解けたのにまたか、と思われるでしょう。しかし、今はまだ行動制限を防げる可能性が十分にあります。行動制限をしないで済むように、今回は全員で食い止めましょう。

スライド 27

○ 最後に、ワクチンの接種状況を説明します。こちらは、市町別のワクチンの接種状況となります。高齢者の接種については、7月15日現在、県全体で1回目が約80%、2回目が約53%が完了している状況となります。

スライド 28

○ 続いて、全人口の接種状況となります。県全体では、1回目が約26%、2回目が約16%が完了している状況となります。こちらに、VRSに入力されていない医療従事者の接種を追加しますと、県全体で1回目が約31%、2回目が約20%完了したこととなります。

○ また、この市町別の接種状況につきましては、今後、1週間に1度のペースでホームページに掲載していきますのでご確認ください。

○ これから、本格的に一般接種が始まります。希望される方に早く接種いただけるよう、引き続き、市町と連携してまいります。

○ 私からは以上です。